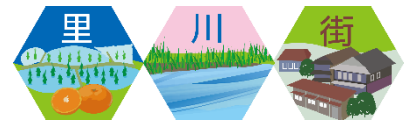


豊川地区



【地区の自然環境概要】

豊川地区は、里、川及び街の要素が含まれた地区です。

北部及び東南部には水田が広がり、素掘りの用水路には在来のメダカが生育する等、田園環境を好む動植物の生育・生息の場所となっています。

南部及び中央部には住宅地や工業団地が立地し、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。市街地の中にある「勝福寺（飯泉観音）の樹叢」などの緑地は、動植物の貴重なすみかとなっています。

西側には酒匂川が流れ、周辺は河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

河川や水田など水辺環境が特徴的であり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。良好な田園環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。

- 成田一帯は、水田が広がる農耕地環境であり、オモダカやアゼナ、ウキクサ等の水田雑草が生育しています。アズマモグラ等の哺乳類、キジやヒバリ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類、クマコオロギ等の昆虫類などが見られ、水田環境を特徴づける種が生息しています。
- 河川や草地在る河川環境もあり、エビモやササバモ等の植物、イカルチドリやオオバン等の鳥類など、水辺環境を利用する動植物が確認されています。また、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）などの希少な鳥類も確認されています。¹
- ツバメやスズメ、シジュウカラ等の鳥類など市街地から里地里山でよく見られる身近な種も確認されています。²
- 桑原・鬼柳用水路には、緩い流れを好むドジョウやミナメダカなどの魚類が見られ、³小田原メダカ発祥の地でもあります。今も希少な植物や水草が多く生育しており、アカハライモリ（絶滅危惧種）等の両生類、ヒバカリ等の爬虫類などが確認されているほか、ケリなどの鳥類も多く確認されています。⁴
- 「飯泉山勝福寺」の境内には、イチヨウやイブキ、ソメイヨシノ等の高木が植栽され、樹上ではゴイサギやアオサギ、ダイサギ、コサギが集団営巣（サギのコロニー）⁵しており、県内では減少傾向にあることから注目すべき生息地となっています。⁶

¹ 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

² 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁵ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁶ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果



キジ

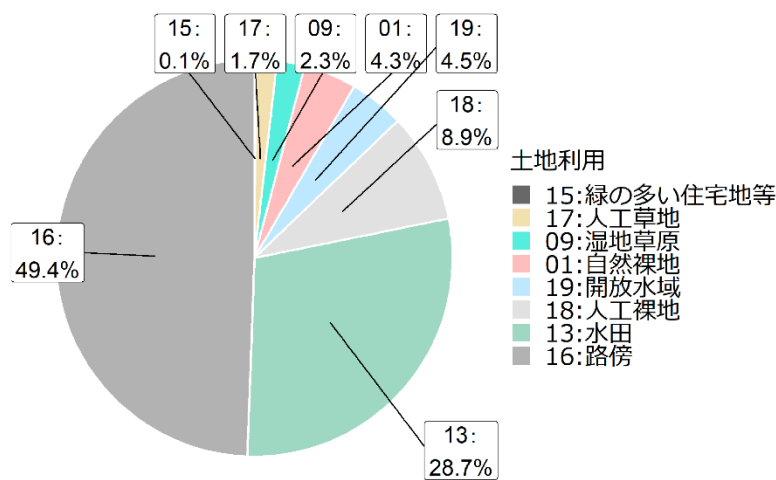


アオサギ

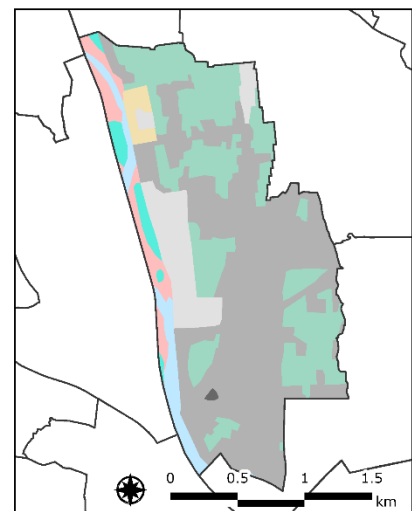


ダイサギ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、南部は主に路傍が占め、北部及び東南部には水田が広がり、両方の合計で本地区の土地利用の約 8 割を占めています。酒匂川周辺は、開放水域や自然裸地、湿地草原、人工草地などの水辺環境が見られ、土地利用の約 1 割を占めています。⁷



豊川地区の土地利用割合



豊川地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

身近にある緑や食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **保全活動等の場**：桑原・鬼柳用水路では、市の魚である在来メダカや希少植物が生息・生育しており、市民や環境関連団体による保全活動等も行われ、貴重な環境が大切に守られています。
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「飯泉山勝福寺（飯泉観音）」は、スダジイやタブノキなどの暖帯林の樹木やケヤキの大木等の自然観察にも適しています。⁸

～食のつながり～

- **米**：広範囲を占める水田は、市内でも上位の面積を保有⁹しており、食を供給しています。

⁷ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁸ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成 9 年（1997 年））

⁹ 出典：農林業センサス 2015

- **農作物**：畑地面積は市内上位¹⁰であり、様々な農作物を供給しています。

【地区で見られる特徴的な自然】

特定植物群落や天然記念物等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **特定植物群落・天然記念物**：「飯泉山勝福寺(飯泉観音)」及び隣接する「八幡神社」の樹叢は、特定植物群落に指定されています。また、「飯泉山勝福寺本堂」の前のイチヨウは、県の天然記念物に指定されています。平成 29 年の現地調査時には、サギ類のコロニーが確認されました。

特定植物群落選定理由

名称	選定理由
勝福寺、八幡神社の樹叢	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴

※出典：第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（環境庁自然保護局生物多様性センター、平成 12 年（2000 年））

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
勝福寺の大イチヨウ	県	昭和32年（1957年） 2月19日	勝福寺	この木は、飯泉山勝福寺本堂の前に立って景観美を添えており、主幹は数回風で折損しているが、地上 7 ～ 8 m の所から約 100 年を経過したと思われる 5 本の枝が分かれ、次々に枝を再生して樹姿を整えている。イチヨウは、神社や寺院境内に植えられる樹木のうち、最も一般的なもののひとつで、市内の各所にも巨木が多くありますが、この木はそのうちで飛び抜けて大きく、県内でも最大級のものの。
勝福寺と八幡神社境内の樹叢	県	昭和47年（1972年） 7月21日	勝福寺、 八幡神社	飯泉山勝福寺は、坂東三十三観音第五番の札所で、飯泉観音として知られる古寺であり、隣接する八幡神社は飯泉地区の鎮守。両境内の樹木は渾然一体となり、文字通り社寺林を形成している。社寺林の主な構成樹木は、イチヨウ、ケヤキ、クスノキ、ムクノキ、カヤ。この樹叢には県指定天然記念物である大イチヨウのほか、古木群として目通り幹回り 2 m 以上のものが 27 本もある市内でも数少ない森。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **神奈川県生物多様性ホットスポット**：「酒匂川左岸の水田地帯」は、希少な植物、昆虫、魚類が生育・生息していることから、神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
酒匂川左岸の水田地帯	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会、平成 30 年（2018 年））

- **鳥獣保護区**：「酒匂川」は、希少鳥獣生息地（環境省レッドリストまたは神奈川県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧が高いランクにある鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域）として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。

¹⁰ 出典：農林業センサス 2015

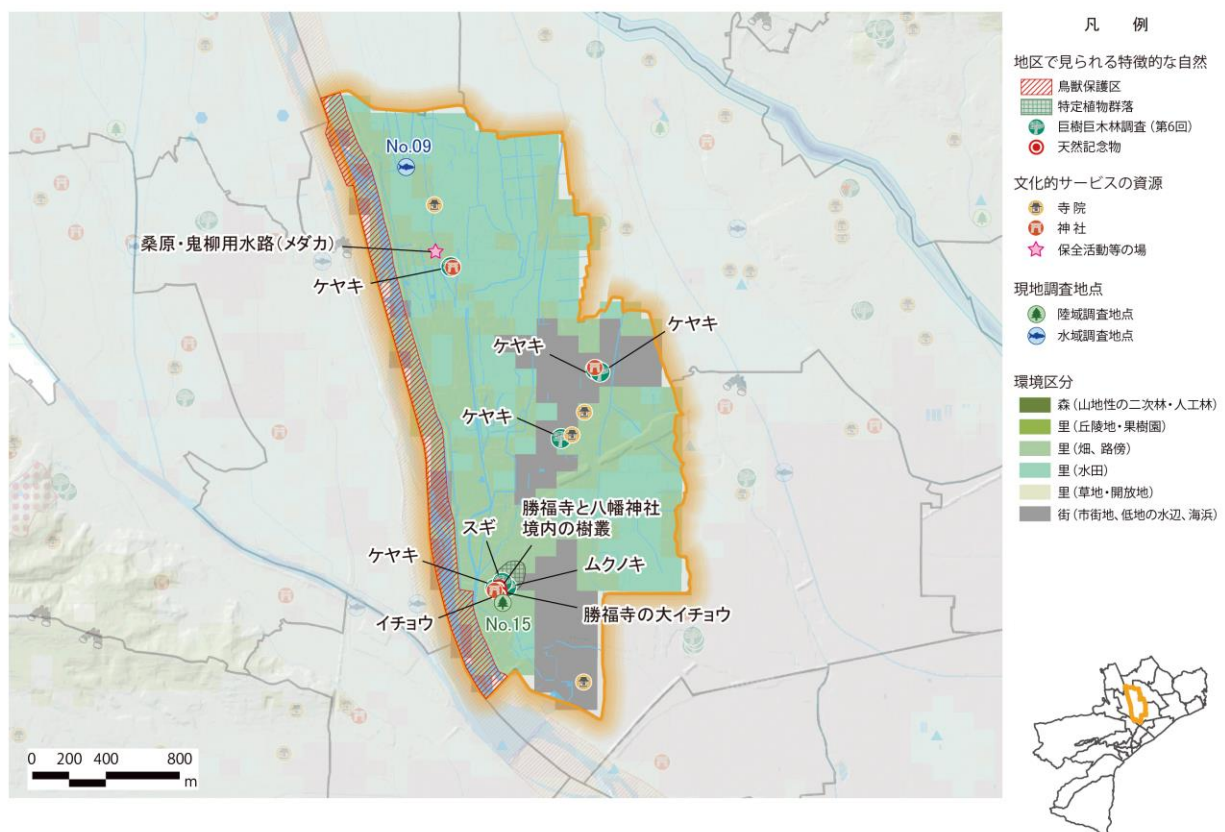
- **巨樹・巨木林**：「三島神社」「成願寺」「飯泉山勝福寺」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹¹で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
三島神社	ケヤキ	18	446	平成12年（2000年）
	ケヤキ	18	385	平成12年（2000年）
	ケヤキ	20	370	平成12年（2000年）
成願寺	ケヤキ	22	310	-
飯泉山勝福寺	イチヨウ	29	750	平成12年（2000年）
	ケヤキ	25	370	平成12年（2000年）
	ムクノキ	20	360	平成12年（2000年）
	スギ	30	340	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、「飯泉山勝福寺(飯泉観音)の樹叢」は、重要な自然として多数指定を受けているため、将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



豊川地区の自然環境マップ

¹¹ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査